

南千住回遊野外劇『リアの跡地』

## 登場人物

円藤洪・・・・・・・・円藤家三女。  
円藤江・・・・・・・・円藤家長女。  
円藤岸・・・・・・・・円藤家次女。  
佐藤エドマンド・・父親に捨てられた男。  
佐藤江戸川・・・・・・・・ホームレスの女。エドマンドの腹違いの妹。  
黒須田(佐藤)・・派遣バイトの女。エドマンド・江戸川の実父の後妻。  
小島ピエロ・・・・・・・・隣の家の子。  
佃煮屋ケン・・・・・・・・佃煮屋・円藤商店の現店主。  
リア・・・・・・・・男、父であり、洪の一部。

## あらすじ

1970年の東京下町・南千住。福島は郡山から身一つで上京してきた少年は、隅田川を越えた橋向こうの足立市場の商店で、小僧として働き始める。養子として先代の後を継いだ彼は、南千住の小さな商店街と住宅街が交わる一角に、立派な三階建ての一軒家を建てた。時は流れ、2021年。円藤家三姉妹は、売れば一億円はくだらない家と、土地を父親から引き継ぐことになり……。

## ゼロ場

東京メトロ日比谷線南千住駅。貨物列車駅そば、首切り地蔵横、西口公衆トイレの前に一人の男・リアが立っている。観客が到着するとリアは名前を確かめ、「登録料」として三千円を徴収する。指定の時間になり全員が揃うと、リアは観客に向かって語り始める。その言葉は、福島は郡山のイントネーションに感じる。

リア　えー揃いましたね。皆さん、本日はお暑い中、南千住までお越しください誠にありがとうございます。早速ですが本日の派遣業務の現場に向かいます。詳しい説明は現地についてから担当のものが：あ、まだ来てないんですけど、ひとまず向かいましょう。基本的に何かをしなくてはならないということではなくて、ただ座って頂ければ大丈夫ですのでご安心ください。一応念のため、予備知識を入れておいて欲しいんで、お配りしている地図をご覧ください。初めて南千住に來られた方は特に。

リア、地図の説明を始める。

リア　南千住は「人」という字のような街です。ここコツ通りと、むこうにある日光街道がまるで支え合うように、隅田川にかかる千住大橋のふもとで交わっている。今から行く家はそんな「人」という字のちょうど股の間にあります。古きものの間から、新しい何かが生まれる予感がする、南千住五丁目はそんな土地で：あ！そうだ忘れてました、今日の現場は「家」なんです。では、行きましょうか。

リア、先導し歩きはじめる。

しばらくして、小塚原刑場跡のあたりで立ち止まる。

リア 南千住にはたくさん名所があり、ここが小塚原刑場跡。

リア、路地に入る。

豊川稲荷付近。一行の背後から黒須田登場。

黒須田 すんません遅れました！ いや遅れるつもりはなくて。起きたらスマホ壊れてて電源つかなくて。そういうことってよくありますよね？ よく旦那にどつかれてるからかな。だからえっと出勤させてください！

リア 今日のバイトリードーの？

黒須田 佐藤っす！

リア えっと？

黒須田 あ、黒須田っす。忘れてた、ここ、独身るとき派遣登録したんだった。

リア ああ。旧姓。

黒須田 変な名前っすよね、よく言われて。だから結婚した時、佐藤って名字になった時、おおフツーだ、ようやくフツーだ、みたいな。

リア んじゃちよっと先行って準備しといて。

黒須田 うおっす。あの勤恳なんすけど、あたし遅刻じゃないんです。ちゃんと時間通りに松尾芭蕉のそこ行ったんすよ。なのにもう出発してるから！

リア 間違ってるよ。集合場所、松尾芭蕉の銅像の前じゃなくて首切り地蔵の方だから。

黒須田 アッ。

リア おらダッシュダッシュ、第二瑞光ファイターズ！

リア、どこか野球部を思わせる口ぶり。

黒須田、家に向かって走り去る。

リア、また一行を連れて歩き始め、南千住仲通り商店街に入る。

リア

さっきのところが豊川稲荷。ここが仲通り商店街。豆腐屋、魚屋。あそこは銭湯があったけど潰れて何になるかと思ったら保育園。で、むこうに第二瑞光小学校。ああ、着きました、あそこです、お待ちせしました。

リア、指を指す。

その先に、一軒の家が見える。三階建ての古い家だ。

その家は、増築が繰り返されたのか、和洋折衷という言葉を通り越して、もはや、ちくはぐな継ぎ接ぎのような見た目。

三階についた二つの小窓と、二階に突き出たバルコニーが、どこことなく人の顔を思わせる。

また、なぜか実際の大きさよりも巨大に見える家である。

一行、円藤家に到着する。

家の前には駐車場が広がっており、緑色の簡易テントが立っている。その下にはパイプ椅子が置かれ、観客はそこに案内される。

リア

すみません。他にも色々なことお伝えしなくちゃいけないんですが……まあ知らなくても問題はないかなと思ったりもします。

## ゼロ場2

円藤家駐車場。手入れがされていないのか、青碎石の砂利がしかれた地面からは雑草が伸びており、白いパーキングブロックを隠している。上手に赤い自販機と青いゴミ箱。

黒須田、登場。

黒須田

どうぞどうぞ、好きなところにお座りください。では本日の業務についてご説明します。皆さんは今から「この土地を買いたいお客様」の「ふり」をしてもらいます。詳しく説明します。

駐車場に、市場風の服装をした男・ケン登場。

手には、また別の服の詰まったビニール袋を持っており、駐車場の隅で着替え始める。

黒須田、気づかず観客に説明を続ける。

黒須田

ここ円藤家は、代々橋向こうの足立市場で佃煮屋を営む「下町の名家」なのですが、売れば一億をくだらないこの土地をめぐり、現在骨肉の争いが繰り広げられています。相続を主張するのは円藤家三姉妹、江・岸・洪。本日の業務は三女・洪さんのご依頼によるものです。というのもお姉さん方が彼女に「この家から出て行け！」と立ち退きを迫っているんですね。

突然、ケン語り出す。黒須田、ケンに気がつき、身じろぐ。

ケン

あの子はたった一人でオヤジさんの面倒を見ていた：それなのにあの姉妹、それぞれの旦那にそそのかされて、ここを更地にし、売ってしまおうと！ あの子だけだ、オヤジさんの跡を継ぎたい

と市場にやってきたのは：あの子だけだ、野球を教えてとオヤジさんを追いかけて行ったのは：あの子だけがここに：円藤家に相応しい！

ケン、いつの間にかホームレスのような、あるいは、長い闘いを生き延びてきた革命家のような服装になっている。ケン、家の中へ入ろうとベランダに縄梯子をかけ始める。

黒須田、ケンに気がつく

黒須田 不法侵入?! (気を取り直して、観客に) 皆さんは洪さんの側に立っていただきお姉さん方の立退要求と一緒に反対してください。とは言っても

ケン 立退反対!

黒須田 とかはしなくてよくてただ座っていてくれれば:

ケン (縄梯子からずり落ちる)

黒須田 一つお約束があります。お姉さん方に何を聞かれても「何も」と答えてください。洪さんに雇われたバイトだなんて絶対言わないでくださいよ。というのもこの土地の所有者で、三姉妹のお父様が現在危篤でして:

ケン 違う! ちょっと高血圧こじらせて入院してるだけだ! 洪お嬢

さんが言っていた!

黒須田 うっせえよおっさん!

ケン あんたの言ってることが間違ってるからでしょう。

黒須田 仕方ねえだろ派遣じゃよくあることなの。バイトリーダーみたいなのも業務の全容わかってねえのあるあるなの! みんなそれくらいわかってるって!

ケン あんた、いくら暑くてもね、独り言はボソボソ言えよ。

ケン、ついに縄梯子を諦め、普通に家に玄関から入っていく。  
黒須田、逡巡するが、見て見ぬ振りより良心が勝ち、

黒須田 あゝも〜！ 待てオッサン！

ケンを止めようと、家の中へ入ってゆく。

## 一場

円藤家駐車場に静寂。

ふとホームレスの女・江戸川、登場。

上手にある自動販売機横のゴミ箱をあさる。

と、捨てられた軟式ボールを見つける。

二階、円藤家居間の台所から、やかんの吹き出し口のピーという音。音は次第に大きくなり、手が付けられなくなったところで、突然消える。

バルコニーに洪、登場。佃煮の入った鍋を持っている。

夏。風がカーテンをはためかせる。蝉の声。

防災無線からアナウンス。

「現在、荒川区全域に大雨洪水警報が発令中です。……」

洪、佃煮を食べる。

洪 しよっぱ……。。

江戸川が高くボールを投げる。

洪、ボールを見る。バルコニーから身を乗り出す。



洪 びっくりした……。

江戸川 なんですか？ホームレスがいたから？

洪 違う！そりゃ今朝そこで寝てるの見た時はびっくりしたけど

江戸川 すんません。

洪 いいの。同級生のよしみじゃん。そうじゃなくて……お姉ちゃんたちかと思っただの……。

江戸川 ああ。

洪 ん……あー、雨、降らないかな……。

江戸川 降らないね、これは。あんたさあ、いくらそういう名前でも雨乞いすんのはやめてよ、こっちにとっちゃ死活問題だからね。

洪 そっか、そうだよね……ねえ上がんない……？

江戸川 ……

洪 そこで寝るのいいんだけど……やめたら？

江戸川 ……においがね。

洪 お風呂貸すよ。

江戸川 いやそういうにおいじゃなくて……街の？

洪 ？

江戸川 そのへんでき、寝たり起きたりしてるじゃん。そうずっと街のにおいが染み着いてくる。表面だけじゃなくて、内側。口の中とか、歯の裏、耳の穴、目の奥。そういうとこまでみっちり染みて、あたしから……街のにおいが飛ぶようになる。それでだんだん見えなくなる。駅前に座り込んでても歩道に寝てても、空気みただいになる。だから

洪 ……じゃあ、あたしは「家」のにおいがする？もうずいぶん、出てないから……。

江戸川 いや佃煮のにおいがする。佃煮屋だから。

洪 バカにしてる？！

江戸川 してないよ！佃煮はすごいよ、においだけでおなかいっぱいになるし、これだって佃煮したらうまいんだろ〜なく！（と、軟式ボールをかける）

洪 お醤油とお酒でちょっと煮込めばゴミでも美味しくなると思ってるでしょ？！

江戸川 みりん。あと砂糖。それがなきゃ佃煮にならないよ。

洪 ……

江戸川 作ったことない？佃煮屋の娘なのに？！

と、バルコニーに隣の家の息子・ピエロ、登場。

デモ風のいでたち。手にはゲバ棒。

ピエロ 洪ー！ もう準備はバツチリ。まず駅のむこうから洪の姉ちゃんたちが来る。そしたら「立退反対！」と表明する。詰められても洪とは無関係だと言い張る！ 地域住民代表として最後までこの家がオヤジさんの手を離れることに反対する抵抗す、

洪、品定めするようにピエロを見た後、中座して、奥の台所へ去る。

ピエロ え、円藤洪さ〜ん？

江戸川 まだかねえ、洪の姉ちゃんたち。

ピエロ なに？俺なんかした？

江戸川 駅からだから、いま処刑場ぐらい？

ピエロ 刑場跡な、小塚原刑場跡。

江戸川 頭の「しょ」取っただけじゃん。ま、処女とジョ・ただの「女」じゃ、ずいぶん違うか。

ピエロ えええ、江戸川！ おおお女がそんなこと言うなよ！

江戸川 なんだよっせえなピエロ。

ピエロ ピ、ピエロって呼ぶな！

江戸川 （野球の応援風に）こ・じ・ま・ピ・エ・ロ。

ピエロ 呼んでいいのは洪だけだ！

江戸川 はいはい洪がつけたもんな。ま、さすがに仙成食堂は過ぎたか。

ピエロ あ、そこ閉まっちゃまったんだよこないだ。

江戸川 えっマジ？ 笑顔の棚は？

ピエロ それもこないだ。

江戸川 えーえー。豊川稲荷は？

ピエロ ある。

江戸川 犬竹鮮魚店は？

ピエロ ある。

江戸川 第二瑞光小学校は？！

ピエロ 母校だろ！ さすがにあるよある！

江戸川 よかったー。

ピエロ でももう名前だけだな、ここ。

江戸川 仲通り商店街？

ピエロ 家ばっかだ。

江戸川 あんたんとこは？

ピエロ （横のアパートを指して）潰した。で、アパートにした。俺継いだんだ。

江戸川 （品定めするような目でピエロを見て）へえー…変わるねえ。

ピエロ （江戸川の目線に気づかず）子供の頃と全然違うよな。みんな案外でてっちゃったし、進学とか就職とか、あ！ 来週試合あんだよ、南千住野球場で。見に来いよ！

江戸川 草野球？

ピエロ バカにすんなよ、少年野球からやってんだかな。(と、口くちずさむ) 第二瑞光ファイターズ!

江戸川 洪もやってたよな、野球。

ピエロ やってた! 洪、今ファイターズのコーチやってんだよ、ボランティアで。ほら、オヤジさんもしてただろ。

江戸川 そんなとこまで継いでんのかよ。・・・来た!

駅方向から円藤家姉妹・江と岸、付き従うように男・エドマンドが歩いてくる。ピエロはバルコニーから部屋の奥に去る。江戸川はガレージに隠れる。

岸、駐車場に着くと家を見上げる。

岸 ひさしぶりね。…おぼえてる? 日曜の朝が来るといつもお父さんは小学校のグラウンド目指して駆けて行った。あんたたちに野球を教えるために。

エド (口ずさむ) 第二瑞光ファイターズ!

岸 少年野球のおっさんコーチよ。なのにお父さんはまるでお父さんの方が少年みたいにはしゃいでいた。

江 ……

岸 きょうだいの中で、妹だけがお父さんについていけた。サイズ違いのおそろいユニフォームを着て、ミットをはめたバットを背負って、手にはボール。あたしはその様子をじっと眺めていた、あのバルコニーから。あの頃はまだお母さんがいた。

エド 岸さん……。

岸 名前呼ぶのやめて男みたいでしょ可愛くないの!

エド つす……。

と、江、二人から離れたところで、野球を彷彿とさせる奇行を始める。

岸

エドマンド、あたしこの家欲しいの。だってお父さん言ったのよ、あたしの結婚式で、あたしにこの家くれるって。(江の奇行が目に入り) 正確にはあたしとお姉ちゃんにこの土地を半分ずつくれるって。なのに何? ボケてきたんだかなんだか知らないけど、相続をやり直すって、妹に全部やるって!(感情がたかぶり倒れそうになる)

エド

(岸を抱きかかえて) にこにこせんじゅ不動産・第一営業部佐藤エドマンド。弱輩ながら円藤家の専売契約、絶対に成功してみせるっす。

岸

あたし、結婚早まったかも。あんたもそう思う?(江の奇行に耐えかねて) お姉ちゃん言いたいことあるなら言っ

エド

江さん、最近喋らないんすよ。な?

岸

仲良いのね。

エド

えっあっいや、

と、バルコニーにピエロ登場。デモ風のおももち。

ピエロ

立退反対! 我々は絶対に出ていかないぞ!

エド

なんだてめえ!

突然、バルコニーにケンが登場。ピエロを突き飛ばして咆哮。一同、騒然となる。

ケン

円藤家取壊し反対! 俺は絶対に出て行かないぞ!

ピエロ 誰?!

エド (姉妹に) 危ないからここにいて! (と、家の中へ入る)

ケン 俺は山谷の革命同志。死んでもこの家を…円藤家を守る!

江戸川 山谷ア? どう言うつもりで言っただよ!

江戸川、ガレージからホースを持ちケンに向かって放水。

ケン、ずぶ濡れになり、ピエロを道連れにバルコニー奥へ退場。

入れ替わりで洪がバルコニーに締め出される。

洪 ピエロ!

岸 洪、あんたはあたしの結婚式で二度とうちの敷居をまたぐなどお父さんに言われたはずよ。なのになぜ? 今、我が物顔でそこに居るの!

岸、家の中に入ろうとする。

江、相変わらず野球風奇行を続けている。

岸 お姉ちゃん!

姉妹、家の中へ入る。残される洪と江戸川。

洪 (ピエロに) ばか! 役立たず! し、

江戸川 言い過ぎじゃねえか!?

洪 (死んじまえと言おうとするが、言葉が出てこない)

江戸川 どう見てもやばいオッサンが不法侵入してきたから鎮火しようって思ったんだけど、

洪 ここはあたしの家あたしの、家、

江戸川   なんか水だと思ってたものが油だったというか異物混入くみたい

な結果になっちゃったね、へへ：

洪        いえいえ、家、あたしの…あたしの…：言え！

江戸川   落ち着きなって！

洪        ここはあたしなのに！

突然、客席にいたリアが立ち上がる。

リア      呼んだ？

洪        呼んだ！どこにいたの？

リア      ずっといたよ。

洪        そっかあたしがわかんなかっただけなんだね。

リア      そうだよ、それで？

洪        見てたでしょ？あたしダメ！一生懸命立てたけど戦略通りに行く  
気がしない！でも絶対に守らないといけないの。

リア      この家をも？

洪        違う。あたし自身よ。

リア      洪、目を開けてご覧。

洪、初めて観客を見る。

洪        いつの間にこんなに人が？！

リア      みんな洪の味方だよ。この家を守ってくれるんだ。

江戸川   おい、何一人で喋ってんの？

洪        上がってきて！ 上がってきて。あたしと言う家に。家というあ  
たしの体に。あたしは今日この家を、あたし自身にするために、  
開いたの。

突然、バルコニーの扉が開く。大量の手が、カーテンの隙間から伸びてくる。在りし日の家族の団欒を思わせるような笑い声。洪、手たちに導かれるように、ゆっくりと家の闇へ溶け込んでゆく。

江戸川、しばらく迷った後、縄梯子をのぼり、家に入る。

リア  
じゃ、上がりますか。(しばし業務的に、観客を家の中へ誘導し)  
あと、しばらく座って見ていれば色々わかるんじゃないかと思うんで。

リアと観客、円藤家に入る。

## 二場

円藤家二階、居間。室内はさながらゴミ屋敷。

廃材がバリケードのように積み重なり、ある一点が野球のマウンドのように盛り上がっている。そこに礫にされたケンがいる。サンルームであったであろう場所はベニヤ板でふさがれ、透明な強化ガラスの壁越しに、大量のハエが湧き出ているのが見える。黒須田、登場。リア、部屋の隅に置いてあった脚立の上のぼり、一同を眺めている。その前を黒須田、横切るが、どうやらもうリアのことが見えていない様子。三階からは、何やら言い争う声をする。

しばらくして、洪、登場。

洪  
皆さん、ご協力ありがとうございます。一時間ぐらいしたらお姉ちゃんたち降ろして、決着をつけます。

黒須田  
皆さんわたしがこうしたら(とハンドサイン)「わたしたち家とか



建てたいんですけど、土地とか買いたいんですけど」……誰も何も言わないけどなんとかなる〜！

洪 娘の玉の輿でいい気になった：お父さんの戯言は忘れましょう。ここにこんなに「お金を出してもいい」って人たちがいるんです。どうです、この際売ってきれいさっぱり更地にして三分割、これで解決しませんか。お姉ちゃんたちも、この家にいい思い出無いでしょうし……。

ケン それは「ふり」なんですか？

洪 あなたは…何なんですか…？

ケン 売るっていうのはは方便？それとも本当に？

黒須田 ごめんなさい不審者です、なんとか捕まえたんですけど。

洪 あー全然、業務にないことさせてこちらこそすみません。

黒須田 あー全然。……ひさしぶり？

洪 (しばし見つめるが想いだせず)あー?! ひさしぶり!?

黒須田 えーちよつと、忘れてたでしょ

洪 えっえっ小学校の時一緒だったよね?・・・(名前が出てこず)

黒須田 黒須田。

洪 そう、クルスタさん!

黒須田 豊川稲荷で会った時からあたしはそうだと思ってたけど。

だってほら円藤さん全然変わんないっていうか。

洪 ええ〜。

黒須田 髪とか短くて服も気い使ってるわけじゃないんだけど、なんかこ  
うオーラがあるんだよねお嬢様の?

洪 ないないうちフツの佃煮屋。

黒須田 今は?店継いで?

洪 そうちよつと手伝ったり、でもお父さん倒れちゃって、今は別の  
人に任せてて、

黒須田 野球、まだやってるの？

洪 ……

黒須田 すごかったよねえ、男の子の中に一人混ざって。超かっこよかったあ。ねえそういえばあれほんとは？ 小6まで合宿で男湯入ってたって話！

ケン 俺は山谷の革命同志！

江戸川 なんだそれ

江戸川、奥まったところにある風呂場らしき引き戸から一瞬、顔を出してすぐに引込む。

黒須田とケン、その姿を見つげられずパニック。

ケン なに？！

黒須田 やっぱ出んの？この家！

ケン 出ないよ失礼な！

黒須田 でも出そうじゃん汚ねえし！

ケン 虫の話？

黒須田 霊の話！ 悪い気が溜まると出んだよお！

リア、脚立の上で伸びをする。腕が一同に向かって伸ばされる。

脚立が揺れる。

と、ピエロ登場。

ピエロ 勝ったー！

黒・ケン わー！

ピエロ 姉ちゃんたち三階に押し込んだー！ ……なに？俺なんかした？

洪、ため息。リア、洪にむかって何か繰り返し手を動かす。

洪、リアを視認する。その手を見つめる。

黒須田 ううん。なんでもない。でもびっくりした、小島くんまでいるな

んて。でも考えてみたらそうだよね、おうち隣だもんね、今は？

ピエロ …ま、アパート経営？

黒須田 すごい！

洪 ピエロ、帰って。

ピエロ え？

洪 バイトの人来てくれたしもう大丈夫。

ピエロ でも、

洪 あんたのせいで平和的解決が遠のいたの。お姉ちゃんたちあんたのことわかった。小島さんちのバカピエロだって。怪しまれてる…グルじゃないかって！

ピエロ ぐ、グルだろ？

洪 「何も！」

ピエロ ……

洪 お姉ちゃんたちに詰められてもそう答えるって約束したよね？

ピエロ 俺は何も言ってないよ！

洪 体がうるさい！

ピエロ (体の声を絞ろうと小さくなる)

洪 とにかくこれ以上あんたがうちにいると迷惑だから。

一同、気まずい雰囲気。

黒須田 あのあたしたちは…

洪 いてください。

黒須田　じゃそれまでは…

洪　お茶でも。(佃煮の入った鍋を出す)

黒須田　(近づき) 鍋? ……佃煮じゃん!

ピエロ　(横から鍋を奪い、佃煮を食べ) しょっぱ……ううっ!

黒須田　小島君、大丈夫?!

ピエロ、泣きながら去る。黒須田、逡巡したのちその後を追う。  
一人残る洪。ケンはや忘れ去られている。

リア　うまくいかねえのは、嫌なんだと思う。

洪、リア自身をはっきりと見つめる。

リア　あいつじゃ力不足だ。

二人　(リアの声が大きく) だけど誰か見つけないと。

二人　(洪の声が大きく) そうしないとこの家はあたしにならない。

洪　この家があたしにならなきゃ、帰れない……帰りたい。

突然、目の前を突っ切るボールが見えて、

洪、マウンドにいる幻想を見る。

ケン　野球の素晴らしいところは人と人とが対峙するその全てに秩序が

あることです。美しいダイヤモンドの先端、決まった場所にバッターボックスがあり、中央にはピッチャーマウンド、バッターの体格に応じて定められたストライクゾーンを巡る攻防、放たれたボールは高いフェンスに遮られた広大なグラウンドに……そんな中で静と動を繰り返しながら精一杯躍動する選手たちの身体。時間

に縛られない、人と人との関係性から生まれる…スポーツ、その醍醐味のすべてがそこにあるのです。

洪、恍惚となりながら、幻想のマウンドで、

ボールを投げようとして、

ケン そう言っていますでしたか、オヤジさんが。

洪 (正気に戻り、ケンを見て) あっ忘れてた。変質者おいてかないでー!

洪、去る。

風呂場からバスローブ姿の江戸川登場。飛んでいるハエを払う。

江戸川 山谷の革命同志ってなんだ。

ケン ヒツ、じよ、成仏してくださいさあ! み、南千住は良い供養寺が多いんです、江戸時代には処刑場と遊女の町でしたから、

江戸川 山谷の革命同志ってなんだって聞いてんだよ!

ケン (しどろもどろに) 労働者の権利を守り、資本家…企業の横暴を許さない…アウトローな…ホームレス!

江戸川 なんでホームレスが家守るんだよ! 百歩譲ってお前がホームレスだとしても、革命家が佃煮屋の社長の家守るか?! どっちかってつとマルクス言うところのブルジョワ寄りだろ円藤さんち!

ケン な、なんか詳しいな。

江戸川 (ゴミ屋敷然とした居間を見渡し) あいつここに住んでんの?

三階から足音。江戸川は風呂場、ケンは客席に隠れる。

岸と江、エドマンド登場。

岸 なーにーこーれー

エド 人！

ケン (客席にまぎれこみ)あのーわたしたち家買いたくて、ここに来たら相談？受けれるってえ。

江戸川 オッサン働くなあ。(と、風呂場のドアを閉める)

エド つまり、洪さんもこの土地を売ろうしてる？ しかも自分一人だけオヤジさんから相続して！

ケン 違う！ いや違うない？

岸 信じらんないバカ妹にあのニート！小島のおじさんに言いつけてやる！

エド あいつニートなんすか？

岸 そーよおじさんからアパート生前贈与してもらって、ひまだから毎日妹の金魚のフンしてんの！

エド 変わんねえ。

岸 あんたもあんたよエドマンド、何盛り上がったの！

エド 同級生だったんすよ。俺が佐藤エドマンドであいつが小島だから出席番号前後で。

岸 あんたがそんなんだからあたしたちお父さんの部屋に押し込まれたんでしようが！

エド こんなふうにな？(と抱きよせる)

岸 そうすっごい平和的に。(とまんざらでもなく顔をよせる)

江 岸 チームメイトだった。小島くんがバッターでエドマンドがキャッチャー。日曜の朝が来るといつもお母さんは炊き立てのお米に佃煮を入れて握ってた。お昼になったらお父さんがあんたたち野球少年と、妹を……チームのエース・ピッチャーの洪を連れて帰ってくるから。

リア、窓際に座る。

姉妹とエドマンド、導かれるようにその方向を見る。

江 だけど、お昼を過ぎてもおにぎりは食べられない。日曜の窓辺

で、少年たちは話に夢中。だんだんお米が固くなる。誰よりもお

父さんが夢中。お互いにしか分からない言葉で話す。あたしたち

は、それを、見て、いた。(口ずさむ)第二瑞光ファイターズ。

喋れんじゃん。

江 . . .

岸 お姉ちゃんはこの家、どうしたい？

江 . . .

岸 何にも言わないことで意思表示してるつもりかもしれないけど、

じゃあ好きに解釈するからね。

江 . . .

岸 堪え性の無いお姉ちゃんは最初の婚約は自己都合で破談、次の結

婚はしたけど別居、仕事は休職、家族のめんどくさいこと全部あ

たしに押し付けて、何も言わずにお金だけもらうつもりでいる！

エド 人がいます！っす！

エドマンド、岸を抱きしめる。

岸、振り払い、退場。

間。エドマンド、江を抱きしめる。

エド 江…？ なあー怒んなって。ああでもしなきゃ岸さんすぐこっち

のこと疑って、ここ独り占めにしようとするんだろ。江はさ、全部

欲しんだろ、この家も駐車場も。それで全部売って、学校の先生

もやめて、旦那と別れたいんだろ。

江

・・・

エド

大丈夫、一億は間違いないよ、うちの社長が言った。にこにこ  
せんじゅ不動産。バカみてえな名前だけど、ようやく俺のこと分  
かるところでさ。俺、他のやつよりできるらしくて、だからギョー  
ムイタクなんだ、完全歩合制。不動産じゃよくあることなんだっ  
て。ここにさ、タワマン立てようよ、アクレスティ南千住みたい  
な(と、バルコニーから駅前を眺める)岸さんあそこに住んでんだよ  
なあー…良い旦那見つけたよ。

江

・・・

エド

俺、江のオヤジさんのこと父さんみたいに思ってた。オヤジさ  
ん、野球だけじゃない、祭りにも参加させてくれた。千住大橋の  
上で大綱引き。隅田川の洪水起こす竜を鎮めるんだって。……フ  
アイターズも、辞めたくなかったよ。でもクソ親父に辞めさせら  
れて、そっからは会いに行きづらくて。俺、江と家族になりてえ  
な。

江とエドマンド、何やら良い雰囲気。

ケン

人が、いまあす！

エド

あっ忘れてた、すんませんこれオフレコで！

突然、駐車場からピエロの叫び声。

どうやら血まみれのピエロと、ゲバ棒を持つ岸がいるらしい。

エド

小島？……岸さん！

エドマンドと江、去る。残されるケン。



江戸川登場。何やら風呂上がりで、ハエを追い払う。

ケン ……生きてる？

江戸川 生きてるよ！ お前さあ、山谷なんとかとか言っただけで、この辺ちよつと行けばホームレスが溢れてんにホームレスじゃねえ人間がホームレス名乗るのは失礼じゃねえのか。路上で寝てる人間は家の中で寝れる連中から「お風呂どうぞ」って言われても「いやいいっす」って慎ましく生きてんのおお！

ケン ……風呂上がり？

江戸川 良いお湯でした……。で、あんたほんとは誰だよ。

ケン 話せば長くなるが…。

江戸川 手短にな。

ケン あれは1970年のこと……。

江戸川 さかのぼるね？！

突然、景色がセピア色に変わる。ピエロと黒須田が、本人たちのような本人たちじゃないような、血濡れの様子で登場。

黒須田 大丈夫？ まさかゲバ棒で殴ってくるとは…。

ピエロ 俺、昔からこんな扱いだから、慣れてるよ。

黒須田 ひどい。(と、手当てする)

ピエロ 優しいなあ。

黒須田 あたし、親がいないでしょ。だからこういう優しいお母さんになりたい、早くなりたいって……思っていた。

ピエロ (サイレンが鳴り) もう行かなきゃ！

黒須田 待って！ 名前教えて。

ピエロ 俺は……山谷の革命同志。

リア、物陰から出てきて、まるで子供のようにピエロの口真似をする。

リア おらあ……俺は山谷の革命同志！

江戸川 ん？

ケン と、言ったのが当時十五歳、のちに円藤家当主になるオヤジさんだったと言う。

江戸川 すっげー長くなりそうだね？！

いつのまにやら、劇中劇のような回想がはじまる。

洪、居間に入ってくるとその様子を眺める。

ケン

時代は70年代安保真っ盛り。福島は郡山から出てきたばかりの少年は、名前を持っていなかった。つまり、東京で通用する家も肩書も無かった。だけど夢は持っていた。少年は革命家になりたかった。いや大学生みたいになりたかった。機動隊と衝突したり、公安から逃れて潜伏したり、国会議事堂を取り囲んだりしてみたかった。女の子とも遊びたかった！しかし時間がなかった。少年の仕事は足立市場の佃煮屋・円藤藤商店の小僧だったから。

洪  
・・・

ケン

そうこうしているうちに襲いくる時代の波！まるで台風が上陸した隅田川のように、オイルショック、東京球場の閉鎖、スーパーマーケットの台頭、バブル景気、そして崩壊！そんな頃、円藤商店の先代がこう言ったのです。「お前が、円藤家を継げ。」こうして南千住にある一軒の家に、少年だった青年は当主として入ることになったのです。

江戸川 婿養子。

円藤家居間は昔ながらの家庭で行う結婚式の様子になっている。しかしそこに花嫁の姿はなく、リアの姿しかない。さながら家とリアの三三九度である。

ケン

長女江、次女岸。そしてよく晴れた日曜の朝、末の赤ん坊が生まれたとき、オヤジさんは思い出しました。小さい頃、福島は郡山の暴れ川・阿武隈川のほとりで受け止めた軟式ボールのことを。あの時の抜けるような青空。これらはもつと好きなことをやろう、やりたいことをやろう、そうだ、野球しよう！

ピエロ

プレイボール！

突然、一同、子どものように居間に入ってくる。

室内をグラウンドに見立て、野球の態勢になる。

洪、いつの間にかマウンドに立っている。

向かいにはゲバ棒をバッドのように持つ岸がいる。

洪がボールを投げようとしたとき、リアがその手を掴む。

洪、吹っ飛ばされる、ボールはリアの手から放たれ、

試合が始まったその瞬間、幻想のマウンドは消える。

岸、ゲバ棒でピエロを殴ろうとふりかぶり、避けたピエロによって、その一撃はケンの腹に当たる。

一同、夢から覚めたように慌てて止める。

江戸川、風呂場へ去る。

エド

岸さん、野球はそういうルールじゃない！

岸 残念ながらあたしはお父さんから野球をさせてもらえなかった子

でね。何度も頼んだけど「女じゃダメ」の一点張り。じゃ、なんで洪は良いわけ？！

洪  
・・・

岸  
だいたい！名前も変でしょう。姉さんが江で、あたしが岸。女の子につける名前じゃないわよ。百歩譲って姉さんは江姫の江よ。千住大橋かけた徳川家康の息子の嫁よ。地域性ばっちりよ。でもあたしは、岸！岸で！どこの？なのに妹だけ洪、さんずいにと。なんか可愛い。なんか可愛いせいか、お父さんもこの子だけ可愛がって…。

岸を止めようとする一同に揉まれていくうちに、ケンの変装が次第に解けていく。

岸  
とにかくあたしはルールを知らない。参加したくてもできない。そういう子は、秩序をめちゃくちゃにすることしかできない！

岸、ケンを見てふと手を止める。洪と江、息をのむ。  
ケン、すっかり市場風の服装に戻っている。

岸  
誰かと思ったらあんたケン兄ちゃんか！

洪  
ケン兄ちゃん?! どうしてここに。

黒須田  
誰？

ピエロ  
えーっと佃煮屋円藤商店を洪のオヤジさんから託されて、お父さん、あたしの結婚式で、たしかあなたにも言ったよねえ、「佃煮屋は託す！でももう二度とうちの敷居はまたぐな」って！

ピエロ  
でも色々あって絶縁状態の、

黒須田  
ふくざつ！

岸 お姉ちゃん何か言ったら？ 元・婚約者なんだから！

黒須田 もうわからん！

ケン 江お嬢さん……

江 ……

ケン、江に向かって膝をつく。

ケン 俺ずっと謝りたくて。だって、俺に何か悪いところがあつたんで

しょ、だから俺と結婚したくなくなって、

江、ケンの手を取り、起こす。何やら和解のムード。

ケン 幸せです……。

一同 えー……？

ケン 洪お嬢さん！ ……やっぱりこの家で昔のようにオヤジさんと仲  
良く暮らすのはどうですか！ お嬢さん一人がこの家の持ち主に  
なるんじゃないかと、三人姉妹が入れ替わり立ち替わり、みんなで仲  
良くオヤジさんと暮らす！ ここを更地にするよりずっと良いじ  
ゃありませんか！

洪 違う、それはあたしの戦略じゃない！

黒須田とピエロ、頭を打つ。岸と江、洪をにらむ。

岸 やっぱりそう言うことだったの。あんたここを自分ひとりで相続  
してあまつさえ売ろうとしてたわけ？

黒須田 あゝ！ と、いうより洪さんは、より良い土地活用を目指してら  
して！（と観客にハンドサイン）「わたしたち、家？ とか建てた

岸 いんですけど？ 土地？ とか買いたいんですけど〜」 って！

岸 そーいうことは帰って旦那に聞かないと。

洪 一人じゃ何にも決められないの？

岸 ちがう。家族になるってことは小さなことから大きなことまでふたりで決めるの。それが、お互いがお互いのことを尊重し合うってことなの。便座をあげるとかさげるとか、靴下を洗濯物からわけるとかわけないとか、そういう生活の細々としたことから…：こういう大きなことまで、ふたりで決めるのよ。ねえ、あんたもわかるでしょう、そうじゃない家がどんなだか。

洪 じゃあもうお姉ちゃんはそのうちの人じゃない、うちにそんなルールはない、出てって！

岸 あんたが出てきな！ ケン、三階に閉じ込めて！

ケン、洪をかつぎあげる。

洪 ピエロ！

ピエロ 俺、帰るよ。…それに俺、ピエロって名前じゃないし。

と、黒須田の手を握る。

黒須田 え？

ピエロ、黒須田と去る。

洪 離して！

ケン 暴れないでください。(黙っている江に) 江お嬢さん。

洪、ケンにかつがれたまま、三階へ連れてゆかれる。

江、ケンの後を追い出て行く間際、ジッと岸をにらむ。

ドアが閉まる。

ひと間おいて、黒須田、再登場。

岸 帰るんじゃないの？

黒須田 いや一応仕事なんで……あの遅ればせながら私、こう言うもので

……（と、名刺を出す）

岸 ほーん…なんだ、土地活用云々は嘘だったの。

黒須田 あの、ここにいる時間分のですねえ、

岸 お給料、日払いですか？

黒須田 えっ

岸 銀行？ ま、振り込みますから今。キャッシュカード出して。

岸、スマホを取り出し、高速タップ。

黒須田 ネットバンキング。

岸 派遣さん、最近は市場でも使ってるんですよ……あ、呼んでるん

ですよ、繁忙期とか。けっこう忙しいんで、けっこうな人数、

短期バイトで呼んで。お父さん、店の中に人が多いと、昔みたい

だって嬉しがって、わざわざ駅まで迎えに行ったりして。

黒須田 へえー。

ピエロ （階下から声） まだー？！

岸 そういう人の手配とか、あたしも結婚前は手伝ったりしてたんだけどな。

黒須田 ありがとうございます！

黒須田、去る。エドマンドと岸だけが残る。

岸 残念だったね、お姉ちゃん(のこと)。

エド え？

岸 バルコニーでしゃべってること、駐車場につつぬけだって知らなかった？

エド ……

岸 にこにこせんじゅ不動産。しょうもない会社。わかってないの？ 完全歩合なんてやりがい搾取の詐欺だよ！ ま、わかってるか。うちのゴタゴタ使って出世しようと思ったんだろうけど…出てっ  
て。あんたなんか大嫌いだった。日曜になるとなんでかうちのり  
ピングにいて、お母さんのおにぎり食べずにお父さんと野球の  
話。あんた、どんなに卑しい顔してたかわかる？ お前らなんか  
より俺の方がこのオッサンの子供に相応しいって顔してた。あん  
たなんか、親に捨てられた子供のくせに。

エド ……

岸 (観客に) すみませんけど皆さんも出ていってもらいって。お給料  
もはい、後で振り込みますんで。(エドマンドに) じゃ、よろし  
く。

岸、去る。ドアが閉まる。

エド あ……じゃ皆さんこっちっす……。

突然いきおいよくドアが開き、リア登場。

リア 違げえって。



エドマンド、初めてリアを視認する。

エド おめが行くのは、上だ。

廊下は先ほどとは違い、荒野の雰囲気を漂わせている。

エドマンド、フラフラと三階へ上がっていく。

江戸川、風呂場から出てきて、

江戸川 ちょっと、おーい、大丈夫……お兄ちゃん！

江戸川、エドマンドを追って三階へ上がる。

リア、観客を誘導する。

リア 皆さんも上がってください、どうぞどうぞ。ありがとうございます！

す、来てくださってありがとうございます！

観客とリア、三階へ上がる。

### 三場

円藤家三階、父の部屋。

部屋は紅白幕で包まれ、床には『共産党宣言』（マルクス）や

『クロポトキン研究』（大杉栄）等、おそろくすべて古本で

集められたであろう茶色くすすけた大量の本が散らばっている。

布団の上で、赤い靴を履いた洪が眠っている。

リア、観客を誘導する。

リア お座りください、お好きのところへ。今日はめでたい日ですか

ら。ええ、うちの娘が結婚するんです。娘たち！

突然リア、叫ぶ。

あたりは、在りし日の結婚式の様子へと変わる。

バージンロードを模した廊下に、ウェディングドレスを着た岸、  
礼服姿の江、登場。

リア

娘たち！ お前たちのうち、だれが一番父を愛していると言える  
かな。親を思う気持ちが最も深い者の夫に、最も大きな贈り物を  
授けよう。江。

江

お、お父さん…お父さんへの想いは言葉にならない。言葉なんて  
無力になるような…愛。

リア

岸。

岸

お姉ちゃんが私の気持ちのほとんどを言ってくれた。でも足りな  
い！ わたしのただひとつの幸せは、お父さんを愛することだか  
ら！

リア

洪！

洪、起き上がる。

洪

……何も。

リア

何も？

洪

何も！

リア、泣き出す。一同、うろたえる。

リア

俺はこの子を一番かわいがり、余生のすべてをゆだね、優しく世

話をしてもらうつもりだった。だというのに……今ここで、誓う。  
親子の縁も血のつながりもきっぱり断ち切る、今後お前は永遠に赤  
の他人だ！

ケン  
オヤジさん、本当の親よりもおれの親のオヤジさん、今の言葉、取  
り下げてください！

リア  
黙れケン！ 佃煮屋は託す！ だが金輪際、うちの敷居はまたぐな！  
ケン  
お嬢さん、おれと一緒に市場で働きましょう。オヤジさんもすぐに  
許してくれます。

廊下の遠くの方に、ピエロ登場。

ピエロ  
洪たいへんだ、オヤジさんが倒れたって。お前に家に戻ってきて  
欲しいって。

洪  
お父さん！

洪、気を失う。ケンもピエロも姉二人も消え、リアだけが残る。  
廊下にエドマンドが登場。リアに押され、部屋の中へ入る。  
エドマンド、振り返るが、もうその姿は見えない。

洪、目を覚ます。二人、しばし沈黙。

洪  
……出てけっていたり、閉じ込めたり……横暴でしょう。あた  
しこんなだった。お母さんが出て行ってからは余計に。

エド  
お前だけが、ファイターズに入れたから？でも実際、オヤジさん  
はお前のことが特別みたいだったよ、姉さんたちより。

洪、リアを見る。洪にむかって何か繰り返し返し手を動かす。  
次第にそれがハンドサインだとわかる。

洪 だって：お父さんあたしのこと男だと思ってたの。

エド え？

洪 小さい頃から、お父さんはあたしのことを男だと思ってて、

エド 男として育てようとしてきたってこと？

洪 ちがう、おちんちんついてると思ってたの。

エド おちん：

洪 だからあたしのことすごく素直にチームに入れたの、お姉ちゃんたちは頼んでも無理だったのに。

エド だからお前小6になっても合宿で男湯入ってたのか？！

洪 ・ ・ ・あたしのこと、やっと生まれた男の子だって、本気で思ってた。

エド 服は？制服スカートだったろ？

洪 詰襟に見えてたみたい。

エド でも祭りには参加してなかったよな。：：：それ、姉さんたちは？

洪 知らない。お姉ちゃんたちも、お母さんも。人に今初めて言った。

エド ・ ・ ・

洪 あたしにはね、あたしにしか見えない兄弟がいるの。

部屋の奥に隠れていた江戸川、ゆっくりと顔を出す。

しかし二人は視認しない。

洪 その子は男の子で、歳はいつもあたしと同じぐらい。小さい頃か  
らずっと一緒に。あたし、自分は本当は双子だったんじゃないか  
って。でもお母さんのお腹の中で、その子は消えてしまって、あ  
たしだけが間違った性別のまま、生まれてきてしまったんじゃない  
かって。

エド

・・・

洪 その子はね、今ではあたしより立派な「人」なの。ほら、今もそこにいる…みたい。

エド

さつき、見た気がする。

洪

本当？

リア、またハンドサインを出す。

洪

…：ねえ、あたしがあんたのこと好きだって知ってた？

エド

え？

洪

おんなじチームだったじゃない。あたしいつもあんたを目で追いかけてた。

エド

俺が…：お前んち、壊したんじゃないかって。おにぎり。お前の母ちゃんが握ってくれて。でも俺、施設だから、いじきたないって言われるのが怖くて、食べれなかった。オヤジさんが食べたら食べようと思って、でもいつまで経ってもオヤジさん手を出さないから、おにぎり、いつもカピカピになって…：

洪

あんたが何もしなくても、ずっと前から壊れてたんだよ。ここには家しかなかった。もしかしたらずっと長い間。ねえ、あたしたち結婚しない？それでこの家もらうの。

エド

俺、たまにクソみたいなオヤジが金の催促しにきて、

洪

みんながみんな完璧な家族を持ってないといけないの？お父さんお母さんが揃ってて庭付き一戸建てみたいなの。そんなのどうだっ  
ていいよ。あたしだってお母さんいないし、

エド

でも、父さんは、いる。

洪

もうすぐいなくなる。

エド

え？

洪 お父さん、危篤なの。

エド

・・・

洪 高校出ですぐ岸姉ちゃんが結婚してね。お姉ちゃん、玉の輿だったでしょ。お父さんすごく喜んで、この家で式を挙げたの。ケン兄ちゃんと破談して、よくわかんない他の人と結婚した江姉ちゃんも呼んで。みんなで三々九度。そしたらお父さんね、突然言い始めたの。この中で誰が一番俺を愛しているか、って。それで、言えって言うの。言葉で。どれだけ、どんなふうに、お父さんを愛しているか。……お姉ちゃんたちは何か言っていた。あたしは……何も言えなかった。

リア、洪を押す。洪、エドマンズの靴を片足、脱がしはじめる。

洪

そしたらすっごい怒って、出て行って言われたの。しかたないから小島のおじさんに話してアパート格安で貸してもらって。昼間はケン兄ちゃんと足立市場で仕事。

エド

た、大変だったんだな。

エドマンズ、逃げようとしたところを見えないリアに捕まえられ、むりやり洪と体を密着させられる。

洪

全然！ 楽しかった。お父さんが辞めたファイターズのコーチも引き受けてね、毎日があっというま。それに、ベンチからマウンドを眺めていると、お父さんのこと、なんとなくわかるような気がした。

洪、扇情的に横たわる。リア、エドマンズを押す。

エドマンド、おびき寄せられるように、洪の靴を脱がしてゆく。  
洪、裸足になる。

洪 ……でも一年ぐらい前かな、お父さん高血圧こじらせて倒れて。  
それであたし、お姉ちゃんたちじゃなくて、あたしに帰ってきて  
くれて言われて、帰ってきたの。

エド 仕事は？

洪 おやすみもらってるの。コーチの方も。ちょうどゆっくりしたか  
ったし。…お父さん入院して、一時退院できたんだけど、やっぱり  
りまた、ね…。調べてもらったら、余命宣告されちゃった。お姉  
ちゃんたちには、言えなかった。だってこれ以上責められたらと  
思うと…。

エド

・・・

洪 お父さんあなたのこと気になった。病院行って遺言書作ってもら  
おう。あんた不動産だしそういうのわかるでしょ。大丈夫。ね、  
この家とあの駐車場。広くは無いけど狭くはないわ。全部あたし  
たちのものになるの。あたしたち、幸せな家をつくりましょ、男  
の子がいてパパとママ…。幸せなよくある家を…。

エドマンド、もう片方の靴下を脱ぎ捨てる。

荒々しく洪の手を掴み、廊下へ連れてゆこうとした瞬間、  
ふと洪、リアの手を握り、問う。

洪 ……ここでこの人、なんて名前だっけ。…まあ、知らなくてもい  
つか。

洪、エドマンドの腕の中に飛び込み、二人、廊下の奥に去る。

一部始終を見ていた江戸川。

江戸川

いいわけあるかー！ なんだあれ、あいつ、大丈夫か？ …おお、寒…なんだよこの家、マジで出んのかよお…ここにいるとなんか…自分のこと話さなきゃいけねえ気がするな。あれだな、懺悔室に似てる、施設にあった。

リア、江戸川のポケットを探る。江戸川、まるで自分自身が自然と思いついたかのように、ポケットの中にあつたボールを取り出すと、壁に投げる。一人キャッチボール。

江戸川

アーメン！あたしは！あいつの妹！佐藤エドマンド！で、妹の佐藤エドガワ。普通そんな名前つけるか？！ま、御察しの通りの親でした。あたしたちは別々の施設に預けられて、でも学校はおなじ。気まづかったーだってあいつの母ちゃんとあたしの母ちゃん違うから。気が向いた時だけ、クソ親父が迎えに来る。まあでもそれも3日とかです。でも全校集会とかであいつの顔見るとわかるんです、あ、今日は家に帰るんだなって。卑しい顔をしていました。でもきつとあたしもそう見えていたと思います。だから余計に話せなかった！

ふと江戸川、なぜこんなことを誰もいないところでしゃべっているのかと、正気に戻り、唇に手をやる。

リア、江戸川の体に触る。江戸川、触られていることに気がつかないまま、まるで操り人形のように、美しいピッチングフォームを描いていく。



江戸川 あたしは結構勉強が好きで、特に歴史が好きで、高校出たら働いて、夜間の大学に行きたいなって思っていました。でも18歳の誕生日、施設を出なくちゃいけない日、父さんがあたしを迎えにきたんです。あたし嬉しくて、着いていたら！売られそうになりました！それで逃げ出してそれからずっと家が！ない！でも最初から！家なんて、なかった！

江戸川、リアを振り払う。リア、殴られる形になる。

江戸川、ふと手を見て。

江戸川 お？……おお。

突然、防災無線からアナウンス。

「現在荒川区全域に大雨洪水警報が発令中です。……」  
アナウンスは何度も繰り返され、次第に轟音になり、激しい雨の音に変わる。おびえる江戸川。  
と、そこにレインコートを黒須田、登場。

黒須田 (観客に) あー、まだいましたか！ そうっすよね、帰れって

言われて帰るバカはいないっすよね、ちょっと降りてきてくださ  
い！ 避難しましょう！

江戸川、部屋を出ようとしたところを、リアに突き飛ばされる。  
ベッドから動けなくなる。

江戸川 え？！

リア んじゃあ、行きましようか。

リア、観客を連れて、二階へ下ってゆく。

#### 四場

円藤家二階。窓の向こうから豪雨の音が聞こえる。

部屋の中はさらに雑然としたように思える。

黒須田登場。リアとすれ違う。が、視認できない。リア、去る。

黒須田

あーダメだ、一階はね、浸水してます。とりあえず好きなどこ座  
ってください。これ以上水が上がってこないよう、みんなでバリ  
ケード作ってますけど、古い家だもんな。……帰りたくねえな……  
…（ふと佃煮を食べ）しょっぱ？！

レインコートを着たピエロ登場。

ピエロ

はー疲れた、俺さ、超積み上げたよ土嚢やら木材やら。なんか、  
ちようだい。

黒須田

……ん（何もしない）

ピエロ

なんか…さっきと違うくない。

黒須田

子供家にいるから早く帰らないとって

ピエロ

子供いんの?! 結婚してんの?!

黒須田

アッ(と葉指を隠し)んーして、してる?

ピエロ

なんだよお……

ピエロ、落胆を誤魔化そうとゲバ棒で素振りをする。

黒須田、佃煮の鍋を落とす。

ピエロ 何してんだよ！

黒須田 こっちのセリフだよ！なんで野球やってた男って隙あらば素振りすんだよ！夜中の公園とか人のいない路地とか駅前でもすんだろ怖えだろうが！

ピエロ 怖かった……？

黒須田 怖えに決まってんだろ。

ピエロ (黒須田を抱きしめようとする)

黒須田 やめる？なんで今それいけると思った？

ピエロ いや、怖くないよって。

黒須田 そーいうとこ！男、そーいうとこだよ！お前が怖いって言うてるのに、なんで安心・安全をお前から受け取れると思ってるんだよ！与えられると思ってるんだよ！

ピエロ、黒須田の権幕におののく。黒須田、なにか達成感。

ケン、江を連れて登場。

ケン いやーひどいひどい。荒川区全域に避難勧告だ。ま、もうしばらくしたら上がるでしょ。ところで江お嬢さん、オヤジさんにはいつ挨拶にいきましょう。

江 ……

ケン 早い方がいいと思うんですよ、なんともないって洪お嬢さんは言うてもましたけど、歳が歳ですから。佃煮屋の権利だって今ちよっと宙ぶらりんでしょ、ほら、岸お嬢さんの結婚式から。

江 ……

ケン 月の売り上げから割とオヤジさんに送ってますけど音沙汰ないしここら辺できちんとさせといた方がいいんじゃないかって。

岸、遅れて登場。

岸 冷静になるとなんでダメになったか思い出してきたでしょ、お姉ちゃん実質バツイチなんだから今度こそ確実に行った方がいいよ。はー、疲れたお茶ちょうだい。

ケン ダメってなんですか。言わせてもらいますけどね、岸お嬢さん、そんならあんたが今ここにいることも本来ダメなんですよ。

岸 は？

ケン 洪お嬢さんの言うとおりに、あなたもう円堂家の人間じゃないですよ。

岸 ケン兄ちゃん、あんた民法頭から読みな？ 結婚てのは両性の合意に基づいて、新しく戸籍を作るの、どっちがどっちの家族から抜けてどっちかの家に入るとか、

ケン そんなん法律の文字の上だけでしょ、実際は違う、大半の女は今でも嫁に行く、相手の家に入る、だから名前を変える。

リア、登場。

リア だから、家になれねえ。

ケン 仕事を辞める。生活の仕方、些細なことから大きなことまで全部合わせる「ご主人」ができる。

岸 はあ？

ケン ご主人と大切なことをふたりで決めて、あなたの意見が通ったことが、これまでどれだけあったんですか？ 「ご主人」と。どうしちゃったの革命同志。

ケン あんたはもう円藤じゃない、円藤岸は死んだんですよ、あの結婚式で。

岸、ケンを殴ろうとするが、容易くケンに止められる。

ケン もう受験しないんですか、司法試験。

岸 結婚したし？

ケン 江さんもう復帰しない？

江 ……

ケン そうやって済まされてしまって、自分自身も諦められるんですよ。……だから女はダメなんだ！

リア 家になれねえ。

ケン オヤジさんは革命家に憧れていたのを知っていますか。俺はオヤジさんに憧れて、オヤジさんのなりたい革命家に俺もなりたかった。本を読みました。オヤジさんが市場に忘れて帰ってしまった文庫本を何冊か。でもなぜでしょう。読めば読むほど、あなた方が同列の人間ではなく、啓蒙しなくてはならない対象に見える。左翼ってんのはそういう負の歴史を持つてんのよ！

岸、金的をする。ケン、うづくまる。一同、震え上がる。

岸 だとしても中立気取った冷笑系になのは話が別だよ！

ケン 岸さん、あんたはずるい：都合のいい時だけ女と男を行ったり来たり！

岸 都合よく生きてない男がどこにいんのよ！

ケン オヤジさん！

岸 そうね：お父さんは違った。骨の髄まで「男」だったわ。お父さんはあたしたちが結婚するまで一人前とみなさなかつた。違う、結婚しても！おぼえてる？お父さんはあたしたちにじゃなく、

あたしたちの夫にやると言ったのよ、この家、円藤家の持つ土地、足立市場の佃煮屋まで全部半分ずつ、あたしたちじゃなく…あたしたちの夫に…なぜ？！

紅いレインコートを着た洪、登場。

洪 それはお姉ちゃんたちにおちんちんがついてなかったからよ。  
全員 おちん…？！

追って、木材とゴミを担いだとび職姿のエドモンド登場。  
バリケードの領土を増やすようにゴミをぶちまける。

岸 何してんの？！

エド 新居作りです、俺たち結婚するんで！（と、銃のように、インパクトをふりかざす）

一同 はあ？！（と、おののく）  
洪 あたしたちの体には本来「人」につくべきものがついてないのよ。

洪の声に、リアの声が重なる。

二人 お父さんと同じものが！

リア、登場。一同、魔法にかかったように体が動かなくなり、ゆっくりと地面に沈み込んでいく。

二人 だから生まれた時から出来損ないなんだ。世の中もそういうふう

あたしたちを扱うでしょう。ついてねえから減点されっし、ついてねえぶん、ついてるひとのついてるぶんだけかそれ以上頑張らなくっちゃなんねえし、つかせてあげようとぶち込んだりするでしょ。それも全部、あたしたちが穴の空いた出来損ないだからよ。穴の空いた家に住みてえ人は、誰もいないでしょ！

雨は激しくなり、屋内にいるはずが、さながら雷雨の荒野。

出来上がったバリケードは家のようにであり、祭壇のようであり、マウンドのよう。その頂点に、洪が立ち、一同を見下ろしてる。

エドマンド、子どものようにねむりこんでしまう。

それを優しくリア、受け止め、抱きしめる。

リア

結婚てね、女におちんちんつけてあげることなの。こうやって、長えこと私のそばにはおちんちんがあります。生まれた時はわたしに無かったものですが、こうして努力をして、無事に手に入れることができました…：…お願いです！わたしを「人」として認めてください！

リア、洪に膝をつき、頭を擦り付ける。

洪、女神のような美しいたたずまいで、

洪

んー、そんなの借り物じゃない？

リア

…：…そう、借り物。だからあたしたちはいつまで経っても「人」になれない。「人」になれない生き物は、絶対に「家」になれない。だけど人には「家」が必要でしょう。雨風世間の冷たい目。自分を守る「家」が必要でしょう。要るんよ！「家」があるからこそ、人は今日まで生きてこれたのよ！

リア、天に手をかぎす。

さながら何かのサインを待つピッチャー。

或いは天啓を待つ預言者。しかし何も降りてこない。

降りてこないからこそ、リアは続ける。

リア　だからあたしはなる。今日、なる。上がってきて、上がってきて！

あたしという家に。家というあたしの体に！あたしは今日この家を、あたし自身にするために、

洪　開いたの。

洪のレインコートが脱ぎ捨てられ、女神のような姿に変わる。

雷鳴。そう思うような明かりの攻撃。

ふと照明卓と音響卓が照らされ、照明スタッフと音響スタッフ、制作スタッフと演出家が可視化される。

一同　誰？！

スタッフ　ずっといたよ！

一同、叫び声。

江戸川、登場。三階から降りてきた様子。

しかし誰も江戸川を視認できない。

黒須田　やっぱり出んじゃんこの家！

江　でもあたしたちもあなのかもしれない、ずっといるのに、ずっと見えなかったのかもしれない。

岸　言いたいことあるならさっさと行って！



突然、水の音。男たち、排水溝の髪の毛のように、サンルームであつたであろうガラスケースの中へ流されてゆき、閉じ込められる。男たち強化ガラスを叩く。次第にガラスケースの中で内ゲバが始まる。

ピエロ お前はるかしくないのかよ！

ケン そうだそうだ、色んな女を行ったり来たり！

エド 恥ずかしくねえよ！ 俺はどうせ半人前なんだから。半人前は、何やったって、半人前なんだから。いやだから、女が必要なんだよ。半人前は、半人前とくつついてようやく一人前になれるんだから！

しかし、声のほとんどは厚いガラスにさえぎられて聞こえない。男たち、ただ口をパクパクと動かす金魚のように見える。

女たち、それを見て笑い始める。リアも笑い始める。

洪はマウンドであり祭壇である頂きに立ち、それを眺めている。

江 ほら、あたしたちみんな聞こえないのよ。これまで一生懸命喋ってたけど、世の中からはあんなふうに見えてたのね。

黒須田 バカすぎ〜でもかわいい〜！

江 あたしね、学校で無視されたの。最初は子供たちに。次はまわり  
の大人たちから。あたしの言葉なんて誰にも届かないんだって。  
でも違う。届かないからいいのよ。届かないから美しいのよあた  
したち！ 美しさの代わりに言葉を失って、おちんちんもらう代  
わりに名前を失うんだわ。あ〜！ 一生懸命って綺麗！

岸 お姉ちゃんめっちゃ喋るじゃ〜ん。

女たち、レインコートを脱ぐ。色とりどりの衣装があらわれる。天女のように、羽衣のようにレインコートをなびかせ、女たち、踊る。リア、笑う。

リア  
何も聞こえない、何も見えない。そうして初めてわかるものがある。雲よ風よ、荒れろ、もっと荒れろ！ 秩序を壊して、人間の種という種を破壊しろ！

女たち  
（ふと）あんた男じゃん。  
洪  
そうだ、そうだった。

洪、我に返る。  
男たち、魔法が解けたようにガラスケースから出て、黒須田を連れて、去ってゆく。  
江と岸の姉妹、在りし日の日曜日のように、キッチンで料理の支度をする。

洪  
あたしにはおちんちんがついている……だから家になれる。  
江  
あたしあんたのおしめ変えてたけど、ついてないよ。  
岸  
そうそう、なのに一人だけ野球がやれてずるかったんだから。  
洪  
そうだっけ？ あれ？ だからおちんちんを選ばなくちゃいけないか  
っ  
たんだっけ？ 家になんないといけないから、でもあたしには、  
ないから？ あれ？

ふと洪、リアの姿を探す。が、見つけれられない。視認できない。

洪  
どこにいるの！ 教えて……！

江戸川、洪を止めようとする。

が、洪、江戸川を視認できず、ふたりすれ違う。

洪  
あたしはどっちだったっけ？！

江戸川  
お前が決めりゃいいんだよ！

江戸川、持っていた軟式ボールを投げる。

しかしボールは定められたように、リアの手の中におさまる。

洪  
お父さん、今なんて言ったの？

部屋の様子が、変わる。雨が止み、あたりは良く晴れた夏。

洪、佃煮の入った鍋を手にしている。父のおもかげを持つリアが窓際に座っている。

リア  
これからどうすつか、おめえが決めたらしいんだと言ったんだ。

俺は、嘘をついていた。おめえが男の子に見える「ふり」をしていた。おめえがもう女だってことを、おめえが小学校6年生のときにはわかっていた。いやもつと前から分かっていた、生まれたときから。だけどあの日、おめえが生まれた日、子どもの頃阿武隈川で見た青空を思い出して、ふと手を見ると、俺の人生はいったい何のためにあったんか、ただただ馬鹿らしくなってしまった。隅田川、こんなどぶ川を毎日渡り、来る日も来る日も佃煮つくって。体から、もうそのにおいしかない。だから、これからは好きに生きてみようと思った。だから、おめえが男の子になつてくれたらいいと思った。したらこの円藤家は未来永劫続いてい

く。俺は先代の跡を継ぐとき、この家を死んでも守ると誓ったんだ。だから……だからだかかかからだからららら……

リア、自分の唇にふれる。言葉が出てこない。洪、リアの体が、もうリアの手を離れようとしていることに気がつく。

リア

だから……ばかりだ。……おめえが野球をしたいと言ったとき、嬉しかった。ケンといっしょに市場で働くと言ってくれたとき、嬉しかった。俺はわかっていたはずなのに、だんだんおめえが男に見えてきた。おめえが本当に男になってくれるんじゃないかと……でも、違えな。俺の世話を焼くおめえは母さんそっくりだ。おめえは、女なんだな。

洪

何言ってるの……あたしは一度だって、自分のことを、男だと思っただことなんて無かった（死ね！）

洪、鍋をリアに向かって投げる。しかし当たらない。

洪、キッチンから醤油と酒を取ると、リアに向かって注ごうとするが、手が震え、体が言うことを聞かず、黒く赤い水は、床に流れてゆく。

江戸川、鍋を拾い、黒く赤い水の流れを受け止める。

洪

お醤油とお酒でちょっと煮込めばゴミでも美味しくなる……：：：血圧はどんどん上がっていった……：：：大丈夫、ゴミでもおいしくなる……：：：おいしくなる！ だけど……：：：何も……

突然、リアが泣き始める。その声はさながら赤ん坊のよう。いやいやをしながら崩れ落ち、落ちていたレインコートにくるまる。

江戸川、おののく。

レインコートのおくるみの中から、男の絶叫が聞こえる。

リア  
言えなかった！ ずっと！ 前から！

洪、泣きじゃくるリアを呆然と見つめている。

これは在りし日の、父が入院し、退院した後の、  
ふたりの日常である。

洪  
だって……お父さんはいつも遠くにいる。いつもその背中だけ

見える、近づきたい、愛されたい。だから強くなる、男みたいに。

洪、倒れたリアを抱き起こす。強く胸に抱く。

まるで母のように。

洪  
それでも、あたしの心は出来損ない。自分のことを男だと思えな

い。まして「人」だと思えない。

洪、助けを求めるように、江戸川の方へ歩き出す。しかし、

おくるみにつつまれたリアによって引っ張られ、体勢を崩す。

洪、リアの体重を引き受ける。まるでそうすることを自ら望んだ

かのように、洪、まわりつくリアを支えながら歩きはじめる。

さながら荒野の道行。洪の声が鳴り響く。

洪  
お父さん・わかる・なぜ怒ったの・ファイターズのコーチになっ

て、マウンドを外から眺めた時・柔らかい・土の上・跳ねる・駆  
けてゆく・小さな体・だんだんあたしに見えてくる・あたしの指

先に見えてくる・思うように動かないといらいらする・ばか！  
役立たず！ しんじまえ！ ……動かない・動かなくなる・体・  
頭・言葉・わかる…

いつのまにか、洪はすっかり年老いている。

引き換えに、リアは若々しく、しっかりと立っている。

リア、洪の手を取る。

リアを杖のようにして、年老いた洪、歩く。

洪

お父さん・動ける・動かしたい・あたしは・手に・足に・家に・  
なる・お父さん……帰りたい……でもどこに？

ふと、リアが崩れ、その姿は階段に変わる。

洪の目の前に祭壇。

洪、リアで創られた階段に足をかけ、頂きにのぼる。

洪

あまりに脆い、あまりに遠い……荒野に、ひとり。

リア、ゆっくりと身を起こし、洪の足から腰、みぞおちへと手を  
伸ばす。細い腕に指を食い込ませると、導くように、洪自らによ  
って、洪の服を脱がせてゆく。美しい女神の服装から、白装束然  
とした装いに変わった洪。リアの手を取り、まるで恋人のように  
指を絡め合わせ、自殺を決意する。

洪、飛び降りのために息を整えようとするが、整わない。

耳元で虫の飛び回る音が聞こえ始め、次第に激しく轟音になる。

洪が祭壇から飛び降りようとしたその瞬間、一匹のハエが、

洪の手にとまる。洪、それを反射的に振り払う。

その時、リアの手が洪から離れる。  
沈黙。

洪、自分の手が自分自身の意志によって動いていることを知る。  
洪、いきおいよく祭壇から飛び降りる。

それはどこか投身自殺を思わせながらも、満塁ホームランの  
スライディングであり、着水する水鳥のようでもある。

## 五場

円藤家二階。雨は止んだのか、窓の外からやわらかい風。  
ヒグラシの声。

部屋の中央で洪が倒れている。

夢からさめたような姉たちと江戸川、洪にかけよる。

エドマンド、登場。観客を見る。

エド  
えっとまだいたんすか？ いや帰れって言われてたしもう帰って  
かと。…え？

エドマンド、ふと洪を見つけ、駆け寄ろうとしたとき、江戸川と  
目が合う。兄妹、しばし沈黙。と、黒須田とケン登場。

黒須田  
あー！もう二度と派遣なんかしない！ もうちょっといい感じの  
仕事、見つける！

ケン  
市場なんてどうだ。だいたいこれぐらいで…（とスマホを見せ  
る）

黒須田  
え？！

ケン  
（観客に）佃煮なら足立市場の円藤商店。ご注文は03の  
黒須田  
学歴職歴は？

ケン 不問。

黒須田 がんばるっす！

ケン じゃあここにサインもらって（とスマホを操作し）

黒須田 おおペーパレス。えっと、黒須田…あ、ちがう、佐藤…えっと

ケン どっちでもいいぞ、使いやすい方で。

黒須田 じゃあ黒須田、あでもハンコは佐藤の方がすぐ手に入るし…

江戸・エド お義母さん？！

黒須田 え？

エド いや、クソオヤジが再婚したって、しかもやたら若い女で、変な名字のやつだって知ってはいたんだけど…

黒須田 え？ えー？！

江戸川 やーでもよかった、これでもう娘売ったり息子にたかったりしなくなるわけだろ。

エド うんよかったよかった！

黒須田 え、いや、あたし別れるから！

江戸・エド え？！

黒須田 もー限界なの、無理、子ども連れて、今日から佃煮屋に住み込みするから。

ケン え？！

黒須田 無理ならオッサンち行くから。

ケン え？！

ピエロ登場。洪に駆け寄る。

ピエロ 邪魔だよ！ ……洪、洪！

ケン お前何様だッ！

黒須田 不労所得所有者様だよ！



ケン お嬢さん、寝てるだけじゃ…

一同、洪を取り囲む。

岸 あたしたち、あまりに洪をほおっておきすぎたかもしれない。だっ

てうらやましかったからお父さんにひいきされて。あたしたち

ずっといないみたいに扱われて。でも、

江 ……売ろうか。こんな家、きれいさっぱり更地にして。

岸 そうしてここは跡地になる。

江戸川 だいたいさ、佃煮ぐらいで死ぬと思う？ まあ、そう思ったのか。

思っただもんな。……洪、あなたの名前は洪水の洪。怖い

名前、全部を流してくれるから。たぶんさ、家なんてなくても、

生きていけるよ。

エドマンド、江戸川を見る。

江戸川 あたしが証明する。だから、目を覚まして。

岸 何か言っって！

洪、突然目を覚ます。

洪 こうやって物語は大団円のようにまとまってゆく。みんながみん

な終わりに向けて、美辞麗句を並べていく。生きてる頃は寄せも

しなかった想いを寄せて、ちぎれた糸はより合わされ、ひとつの

大きな円になる。何もかも嘘、この世は舞台、男も女も皆役者。

……あたしは、荒野に行く。

洪、江戸川を見つめる。江戸川もまた洪を見る。

洪、バルコニーへ向かい、閉じられていたカーテンを開ける。

かたわらに、リアが立っている。一同、リアのことを視認する。

洪、リアの手を取る。まるで兄妹のように駆けながら、

洪とリアは透明なガラスケースの中に入る。

すると、どこからともなく、水が流れてくる。

激しい雨のような水流に、ゆっくりとリアは溶けてゆく。

洪はそれを見つめている。

助けを求めるように差し出されたリアの手には、

古びた軟式ボールが握られている。

洪、その手からボールだけを奪い取る。

リア、朽ちる。

水滴の滴る中、たたずむ洪の姿は、さながら隅田川の竜。

洪、一人でガラスケースから出てくる。

呆気にとられている一同に向かって。

洪

プレイボール！

洪、バルコニーの窓の向こうにボールを投げる。

暗転。

幕

リア 娘たち！ お前たちのうち、だれが一番父を愛していると言えるかな。親を思う気持ちが最も深い者の夫に、最も大きな贈り物を授けよう。江。

江 お、お父さん…お父さんへの想いは言葉にならない。言葉なんて無力になるような…愛。

リア 岸。

岸 お姉ちゃんが私の気持ちのほとんどを言ってくれた。でも足りない！ わたしのただひとつの幸せは、お父さんを愛することだから！

リア 洪！

洪、起き上がる。

洪 ……何も。

リア 何も？

洪 何も！

リア、泣き出す。一同、うろたえる。

リア 俺はこの子を一番かわいがり、余生のすべてをゆだね、優しく世話をしてもらった。だというのに…今ここで、誓う。親子の縁も血のつながりもきっぱり断ち切る、今後お前は永遠に赤の他人だ！

ケン オヤジさん、本当の親よりもおれの親のオヤジさん、今の言葉、取り下げてください！

② P 5 0

リア 何も聞こえない、何も見えない。そうして初めてわかるものが、  
ある。雲よ風よ、荒れろ、もっと荒れろ！ 秩序を壊して、人間の種という種を破壊しろ！

①②ともに『リア王』（ちくま文庫）（翻訳・松岡 和子）より一部抜粋引用。